

植物と人々の博物館メールマガジン

第 122 号 2025 年 5 月 1 日発行



素晴らしい季節で、桜が花を散らしても、春が深まり百花繚乱です。ツルバラとクレマチスには癒されます、今度からこの道を通ろうなどと、屋外から何人からも聞こえて、とてもうれしいです。この通りはエディブル・ウェイでもあります。エンドウ豆も、アスパラもできました。

武蔵野公園の毎日を伝えるページを作りました。都道の延長は不要です。回復してきた生物多様性を、子供たちのために保全するべきです。小金井市長にお目にかかり、環境保全・環境教育の街という政策提案（私的意見）をしました。

植物と人々の博物館は社会的共通文化財である植物標本、民具、文献資料や書籍を整理して、森とむらの図書室を充実し、連携しているタイ・日本自然クラブの展示も再開しています。ご利用くださり、整理もご一緒に手伝っていただければありがたいです。できることなら、これらの資料は公共の場所を確保して、広く公開し、ご活用願いたいです。借用中の倉庫はすでに雨もりしています。電気・水道などは有りません。

○連携団体からのお知らせお知らせ

1) ざっこくのふしぎ展 東北大学統合日本学センター

<https://cijs.oii.tohoku.ac.jp/news/detail---id-52.html>

2) 田んぼのイロハ田植え編 ECOPLUS

https://ecoplus.jp/2025/02/07/rice_workshop_2025/

3) オンライン学習会：不自然な食べ物—完全食・超加工食品など OK シード・プロジェクト <https://v3.okseed.jp/event/6062>

4) はけと野川の文化祭 4月25～27日

はけの自然と文化をまもる会 hekebun@gmail.com

1. 植物と人々の博物館

○開館・作業予定日：4月10日、21日、28日に開館しました。図書の整理と、展示の再会作業をしました。5月以降も月に2日ほど開館予定です。さく葉標本を選別し、民具、書籍の整理を行っています。公共の知的財産として活用していただけるように、ご協力いただけると嬉しいです。ご協力いただける方があれば曜日や日時は調整できます。また、資料など閲覧したい方はご連絡いただければ、日程調整してご案内します。担当 木俣 kibi20kijin@yahoo.co.jp

主な作業：

①書籍 8000冊・雑穀、民族植物学、環境教育などの資料・書籍の整理、インドの関

連書籍も多い。

②日本、インド、タイなどの民具の整理

③展示の企画：タイの民具の展示、自然文化誌研究会（学大探検部）50年記念記録

④インド亜大陸、中央アジア学術調査隊収集の植物腊葉標本整理、台紙に貼る作業など、

⑤その他

○報告

1) 50周年記念企画の1つとしてZOOM座談会をします。案内は次です。再録

<https://www.milletimplic.net/university/inch50aniv/inch50anipost.pdf>

2) 収蔵書籍の配架替えをしています。

3) 泉龍寺座禅会の視察 2025年4月10日。小菅村長を表敬訪問し、村内の社寺を巡り、博物館を見ていただき、西原に向かい、中川宅の納屋でやまはた農園の富澤さんに解説をしていただきました。中川仁さんも兄ちゃんの遺言を守り、雑穀栽培を続けるそうです。

4) 民族植物学ノオト第18号は2025年3月末に発行し、4月日にサイトに掲載しました。すべての記事pdfは植物と人々の博物館ホームページ（下記：ミュージアムグッズの項）で読めます。意外に相当数の方々が読んでくださっています。

<http://www.ppmusee.org/goods.html>

5) 4月28日、タイの民具の整理、西川文庫、木俣文庫の配置換え作業を中込代表理事、中込副代表理事、黒澤事務局長、木俣研究員で行った。

○予定

1) タイTJクラブ展示準備

2) 書籍、標本の整理。5月12日～下旬予定。

3) 電子書籍：

編集子の自選集 全6巻は順次、ネット上で公開してきました。誤字、脱字、誤変換などは、年度内にもう一度、確認、修正します。これで、専任研究員の研究記録はほとんど公開しました。自選集日英文要約版（第V巻“Essentials of Ethnobotany on Millets ~Their Origin and Dispersal around Indian Subcontinent”）では、穀物に関する新たな栽培起原と伝播仮説および未来への提案をしています。日本語新書版は公開しました。同時に、自選集III『日本雑穀のむら』の補足として、40年前の北海道調査における開拓農家やアイヌ民族の人々などとの対談テープの文章化を進めています。自選集VI『随筆集—生き物の文明への黙示録』や句集に順次新作を追加しています。

民族植物学ノオト第18号を公開しました。第19号は2025年末を原稿締め切りとします。どなたでも、ぜひご寄稿ください。

http://www.ppmusee.org/_userdata/oto_No18.pdf

4) 公式 HP : 植物と人々の博物館 <http://www.ppmusee.org/>に含めて民族植物学関係 HP:生き物の文明への黙示録 <https://www.milletimplic.net/>も国会図書館インターネット資料収集保存事業 (ndl.go.jp)で毎年1回7月20日頃に収録されています (すでに5回登録済)。すべての記事は無料で公開しています。国会図書館の文献録には博士論文や科学研究費報告書などまでが集成されており、ここに保存されている記事は記録として残りますので、とてもありがたいです。

5) 森とむらの図書室への寄贈など 現在所蔵する書籍や文献を整理して、ご利用していただけるように、蔵書リストと閲覧書架を整理充実しています。国内外の調査時におけるフィールド・ノオト、スライド35mmなども、こちらに置きます。リスト作りや番号貼りなど、ご協力いただけるとうれしいです。インド関係、民族植物学、図鑑、世界の料理書、雑穀などの文献、森林政策 (財・森とむらの会の全資料)などに特色があります。

<https://www.milletimplic.net/forestvil/forestvil.html>

6) 雑穀栽培

簡単な栽培や加工、調理法などは下記にあります。不明なことがありましたら、メールください。

栽培法 [雑穀 ～とりあえずの栽培法 \(milletimplic.net\)](https://www.milletimplic.net/farmsklec8p.pdf)
[farmsklec8p.pdf \(milletimplic.net\)](https://www.milletimplic.net/farmsklec8p.pdf)

加工法 [雑穀類の加工方法 \(milletimplic.net\)](https://www.milletimplic.net/)

詳細は『日本雑穀のむら』『雑穀の民族植物学』を検索してお読みください。

7) 植物と人々の博物館基金 PPM Foundation

大口寄附ではなく、できるだけローテクで貯金箱に眠っている1円玉からする任意募金をお願いしています。これまでにゼミなどの会場で多くの方々からのご協力をいただきました。ありがとうございます。将来に向けて、植物と人々の博物館へのご寄附あるいは整理作業のご協力を、よろしくお願ひします。自然文化誌研究会に基金費目を設けました。標本、民具、書籍などを社会的共通文化財として公共の施設で保存・公開するために、費目指定でご寄附をいただけるとありがたいです。今のところ、上野原市西原のびりゅう館に森とむらの会文庫を一括貸し出しています。他に数名の方に、まとめて関係資料を貸し出しています。

これまでに、多くの方にご寄附を頂き、感謝しています。

郵便振込口座は下記です。

口座名義：特定非営利活動法人自然文化誌研究会

口座番号：00100-2-665768

2. 自然文化誌研究会 (学大探検部：東京学芸大学自然文化誌研究会冒険探検部)

○報告

1) 創立 50 周年記念行事の企画会議を行っています。

4 月 12 日、国分寺のタラで、座談会の準備打ち合わせ。4 月 14 日は安孫子さんに近況報告をしました。

○予定の詳細は下記ホーム・ページをご覧ください。

1) 50 周年記念の前企画の ZOOM 座談会案内 **再掲**

内容：

(1) 10：30～12：30

学術探検と学習・教育をつなぐ

挨拶・司会；中込卓男（代表理事）

話題提供；

①木俣美樹男（専任研究員、博物館担当運営委員、東京学芸大学名誉教授）

学術探検の系譜～植物の栽培化過程と伝播＜フィールド・ワークの成果から＞

<https://www.millettimplic.net/university/inch50aniv/lecjunefin.pdf>

環境学習における心の構造と機能の文化的進化＜冒険学校の成果から＞

<https://www.millettimplic.net/university/inch50aniv/inchmindfin.pdf>

②日比野真士（毎日新聞社）

東京学芸大学探検部員の海外探検と探検セミナー

*昼食休憩、自由談話 12：30～13：00

(2) 13：00～14：30

エコミュージアム日本村、雑穀街道普及会などの民族植物学的伝統知の継承・保全活動

司会；井村礼恵（博物館担当運営委員、文教大学准教授）

話題提供；

①宮本透（博物館担当運営委員、宮本茶園）

雑穀栽培講習会と雑穀街道の普及

②黒澤友彦（事務局長、木下養魚場）

エコミュージアム日本村の実践活動

③井村礼恵（博物館担当運営委員、文教大学准教授）

東京学芸大学との社会連携協定による地域振興活動

(3) 14：30～16：00

冒険学校、環境学習セミナーなどの実践活動による心の形成

司会；西村俊（博物館担当理事、北陸先端科学技術大学院大学准教授）

話題提供；

①中込卓男（代表理事）

西原の民俗調査から冒険学校へ

②中込貴芳（副代表理事）

タイ・日本自然クラブの合同キャンプ

③宮坂朋彦（冒険学校担当運営委員、東京学芸大学連合大学院生）

冒険学校と現代教育の思潮～教育哲学の視点から

(4) 16:00~16:10 挨拶・謝辞

小川泰彦（理事）

2) 自然文化誌研究会（東京学芸大学冒険探検部）は来 2025 年に創立 50 周年を迎えます。今までの活動履歴を示す資料集をまとめています。とりあえず、下記で資料の一部を公開しています。ちなみに大学探検部は全国に 20 ほどはあります。日本での大学探検部発祥地、京都大学探検部、関東大学探検部連盟の協賛を得ました。

<https://www.millettimplic.net/archives/historyinch2025.html>

ポスターは下記です。

<https://www.millettimplic.net/university/inch50aaniv/inch50anipost.pdf>

『50 年史』をまとめるとか、50 年間に関わった人々と思いを語り合う会（10 月 4 日～5 日）とか、タイとの交流展示など、企画が進んでいます。環境学習セミナー、公開講座、冒険学校や農学校、関係市民も皆さん、何万人もが場と時を共有した東京学芸大学彩色園で、1 泊 2 日を過ごします。学大環境教育研究センターの了承も得られています。

詳細はまだ未定ですが、おおよその仮案です。

日時：2025 年 10 月 4 日（土）～5 日（日）、1 泊 2 日、日帰り自由参加

話題：未定

場所：東京学芸大学彩色園など。仮承認を得ています。

内容：写真展、談話会、50 年記念誌の発行などを検討中。

3. 環境学習市民連合大学 Civic United University for Environmental Studies

環境学習市民連合大学は環境学習の理論と実践を普及啓発する目的で、ウェブサイトを作っています。環境学習・保全 NP04 団体と 3 個人から出発した市民大学です。主旨は、市民社会の自由、平等、友愛を基本原則として、自らが学び合う環境学習市民連合大学をリンク・ページとして、インターネット上で運営することです。ヨーロッパの 12 世紀ルネサンスの先駆けとなった原初の大学は学び合いたい人々の学習者組合でした。都市を旅しながら教師も学生も互いに学びの自由を守護し合い、共助していました。入学資格、試験、授業料、卒業資格はありません。どなたでも、学び合いたい人々が自由に集まるのです。アーカイブは次にあります。

<https://www.millettimplic.net/university/civicuues.html>

小金井環境市民会議

4 月 5 日、市長への要望書「優先整備道路の検証についての検証方法・検証結果についての市民への説明要望」を直接、市長にお渡ししました。現市長は都道建設中止を公約に当選しましたが、建設方向の文書を都に提出するようです。環境市民会議は小金井市環境条例に基づき、市長に意見を述べるができることになっています。

武蔵野公園は多くの公園、大学、古い多磨墓地など周辺と一体なって、連携した大きな緑地になっています。太古から富士山を眺望できる聖なる場所です。これを中断

するように都道はもう作るべきではありません。

毎日、散歩に行っている場所ですので、次のサイトを作り、日々の彩をお伝えします。小金井環境市民会議のサイトにリンクしてもらいます。

<https://www.millettimplic.net/weedlife/musashinopark.html>

~~~~~

## 植物と人々の博物館 (山梨県小菅村) :

館長 : 木下善晴、顧問研究員 ; 安孫子昭二

研究員 : 木俣美樹男 (東京、専任研究員、担当運営委員)、西村俊 (石川、担当理事)、井村礼恵 (東京、担当運営委員)、川上香 (長野)、渡辺隆一 (長野)、Sofia M. Penabaz-Wiley (千葉)、伊能まゆ (ベトナム)、大澤由実 (神奈川) ほか

公式 HP : 自然文化誌研究会/植物と人々の博物館 <http://www.npo-inch.ppmusee.org/>

事務担当幹事 メールマガジン発行 : 木俣美樹男 [kibi20kijin@yahoo.co.jp](mailto:kibi20kijin@yahoo.co.jp)

民族植物学関係 HP: 生き物の文明への黙示録 <https://www.millettimplic.net/>

エコミュージアム日本村 / ミューゼス研究会 (山梨県小菅村) : 代表 亀井雄次 (山梨小菅村)

自然文化誌研究会 : 代表 中込卓男 (東京)、副代表 中込貴芳 (東京)、小川泰彦 (埼玉)

事務局長 : 黒澤友彦 (山梨県小菅村)

伝統知顧問 : 守屋秋子 (小菅村)、岡部良雄 (丹波山村)

~~~~~

編集の独り言

誰が、このくに、山野、さらに下流の都市を護っているのか、原点に戻って考えてほしいです。イネ米がすべてではないし、麦・雑穀、イモ、野菜も重要です。宮本さんも僕も、都会人ですが、人生と命を懸けて、環境保全や生物文化継承活動をしてきました。殆ど黙殺され、それどころか意地悪もされました。褒めてもらいたいわけではないですが、同じ志の降矢さん夫妻ほか、中川さん父子・兄弟や岡部さん夫妻、秋子さんも誇り高く、山村農人の人生を送り、このくにを護ってきたのだと思います。感謝を求めはしませんが、事実は知っておいてほしいです。まあ、おおかたの都会人は恥知らず、自然知能 NI が低い罰当たりですね。

政策は大きく、小まめに策定してほしいです。山間地での環境や小規模農林業、平地での大規模農業、都市環境の改善計画、統合的に考えてほしいです。誰もが責任と誇りをもって、仕事をしてほしいです。

電車に乗ったり、街中に出かけたりすると、同乗者や道行く人々に暴力的な恐怖を感じる。かつてはラガー、探検家だったが、今のヨボ爺は他者どころか自分さえも守る腕力がない。押されるままに、突き飛ばされるままに、怒りを抑えるしかない。こんな奴らの為に人生をかけたのかと体が震えることもあるが、誠実に生きたことが誇りなら、自己満足するべきだろう。どうしたら、希望が拓けるのか、生きているうちはただ務めるしかないのだろう。などと、戸惑っています。

小菅では源流祭りの準備で、旧知の方々が集まって作業しており、小菅観光、広瀬屋、黒川さんらと立ち話しました。黒川さんは村の伝統を残したいとのご意見で、大いに共感しました。

写真： バラ、クレマチス、ムラサキサギゴケ



西川文庫インド関係書籍配置換え、原沢文庫



ムジナ坂、南学童保育所農園



宮本茶園のコムギとオオムギ(宮本写す)



50周年記念の打ち合わせ、国分寺タラ(黒澤写す)



タイミングの展示準備(中込メ写す)



泉龍寺座禅会の訪問、小菅と西原にて

